

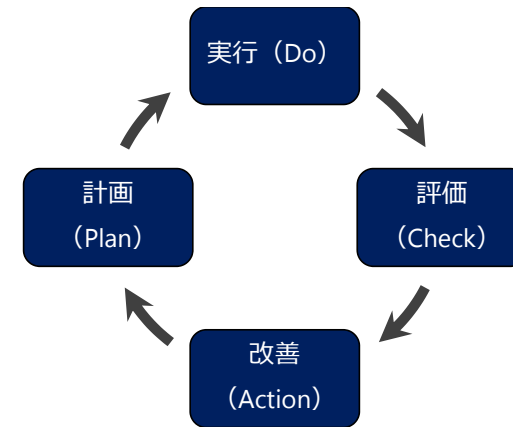
効率的・効果的な事業評価のあり方 に関する実践的研究

(1年次)

岩手県立生涯学習推進センター
社会教育主事 松川 仁紀

研究目的

事業評価とは



2

研究目的

事業評価の必要性

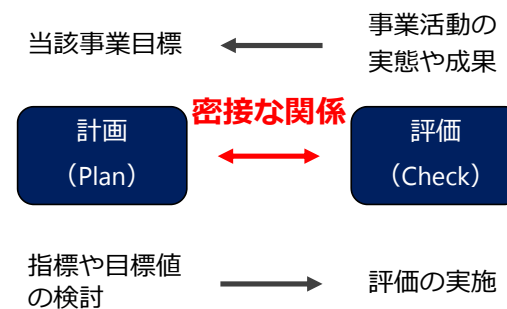
- ・事業の充実や発展を図る
- ・外部に対する説明責任を果たす など

社会教育の分野においても
事業評価の取組が必要不可欠

1

研究目的

事業評価とは



3

研究目的

事業評価に求められているもの

事業当日の参加者の人数や満足度だけでなく、
習得した知識・技能の事業後における活用状況、
参加者の変容等について把握すること

事業評価の結果を、可能な限り数値で示すこと

4

研究目的

課題の解決に向けて

事業当日及びその前後の3時点で調査を実施する
ことが、事業の成果や効果を把握するうえで有効
ではないか

調査を効率的に行うことができれば、比較的容易
に事業評価の実施が可能となるのではないか

6

研究目的

事業評価に関する課題

事業後における活用状況や参加者の変容等について
把握し、数値化して示す方法が確立されていない

事後の状況把握や数値化が難しい

事業評価を実施するための時間や労力等が必要

対応が難しい

5

研究目的

研究の目的

効率的・効果的な事業評価の方法を構築する

市町村等が事業評価を実施する際の一助と
する

7

効果的な事業評価とは

アウトプット評価

事業の結果 について評価する 例えは・・・
事業の参加者数など

両者を、できる限りの確に把握することが求められる

アウトカム評価

事業の成果や効果 について評価する 例えは・・・
参加者の意識や行動の変化など

8

効果的な事業評価とは

効果的な事業評価の捉え方

事業の結果（アウトプット）と成果や効果（アウトカム）を
できる限りの確に把握

定量的評価により
客観的な数値で示す

【効果的な事業評価の方策】

- ・事業当日及びその前後の3時点において調査を実施する
- ・調査の結果は数値によって示す

10

効果的な事業評価とは

定量的評価

量をとらえて 評価する → 数値化が可能な評価

客観性が求められるため、できるだけ数値化して
定量的に評価することが望ましい

定性的評価

質をとらえて 評価する → 数値化ができない評価

9

効率的な事業評価とは

効率的な事業評価の捉え方

効果的な事業評価を実施
するためには・・・

- ・事業当日だけでなく事業の前後にも着目
しなければならず、作業が増える
- ・事業評価に時間や労力を要し、担当者や
調査対象者の負担が増す

効果的な事業評価を実施するうえで
必要とする作業にかかる負担を軽減

【効率的な事業評価の方策】

- ・調査する項目数を制限する
- ・集計作業を簡単にするシステムを導入する
- ・他の事業にも流用可能な汎用性をもった調査とする

11

効率的・効果的な事業評価とは

効率的・効果的な事業評価の捉え方

事業の結果（アウトプット）と成果や効果（アウトカム）を
できる限りの確に把握

定量的評価により
客観的な数値で示す

効果的な事業評価を実施するうえで
必要とする作業にかかる負担を軽減

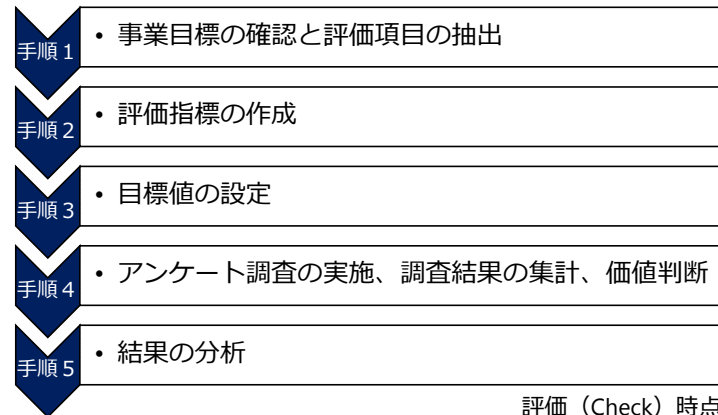
効率的・効果的な事業評価

12

事業評価の方法

事業評価の手順

計画（Plan）時点の作業



14

事業評価の方法



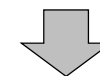
13

事業評価の方法

手順1 事業目標の確認と評価項目の抽出

【事業目標】

「生涯学習・社会教育関係職員及び有志指導者を対象とした研修を実施し、関係職員の資質の向上と指導者の養成を図る。」



事業目標の中から抽出

【評価項目】

関係職員の資質の向上と指導者の養成の状況

15

事業評価の方法

手順2 評価指標の作成

評価項目の内容を測定する時の指標
定量的に把握できる評価指標を作成

手順3 目標値の設定

前年度の事業の状況や県のアクションプラン等を
参考として設定

評価指標 i ~ v を作成し、
それに対応する目標値 i ~ v を設定

16

事業評価の方法

手順2 手順3

評価指標 ii 「事業目的の達成度」

事業目的に照らした知識や技術の習得等
に関する質問項目に対して肯定的な回答
をした参加者の割合80.0%以上

参加者が事業目的を概ね達成したと推察される割合
として設定

18

事業評価の方法

手順2 手順3

評価指標 i 「事業の参加者数」

募集定員に対する参加者の充足率100.0%
以上

事業の目的や内容、募集する対象のニーズ、講師の
意向、使用する会場の状況、前年度までの実績等を
踏まえた定員を基準として設定

17

事業評価の方法

手順2 手順3

評価指標 iii 「参加者の満足度」

事業全体の評価に関する質問項目に
対して「有意義」と回答した参加者
の割合80.0%以上

県のアクションプランで指標としている内容に
より設定

19

事業評価の方法

手順2 → 手順3

評価指標 iv 「事業内容の活用度」

事業内容の活用状況に関する質問項目に対して肯定的な回答をした参加者の割合60.0%以上

前年度の当センター試行調査の結果を参考として設定

20

事業評価の方法

手順4 → アンケート調査の実施、調査結果の集計、価値判断についての方法

【調査の実施回数と実施時期】

事業前	事前調査（事業申込時、概ね1か月前）
事業当日	当日調査（事業当日）
事業後	事後調査（概ね事業2～3か月後）

【調査対象】

事前調査	事業申込者（キャンセル者も含む）
当日調査	事業当日の参加者
事後調査	調査の趣旨に同意した参加者のみ

22

事業評価の方法

手順2 → 手順3

評価指標 v 「参加者の変容」

知識等の実態に関する質問項目に対して肯定的な回答をした参加者の割合が、事業前後で比較したときに増加

事業が参加者にプラスの影響を及ぼす要因となったと考え設定

21

事業評価の方法

手順4

【調査内容】

事前調査	評価指標 v 「参加者の変容」に関する質問項目
当日調査	評価指標 ii 「事業目的の達成度」 評価指標 iii 「参加者の満足度」に関する質問項目
事後調査	評価指標 iv 「事業内容の活用度」 評価指標 v 「参加者の変容」に関する質問項目

当該事業の目的に照らして、1～3項目程度の質問項目を設定（回答は、A～Dの4段階）

23

事業評価の方法

手順 4

【調査方法と回収方法】

事前調査	事業申込様式により実施 メールまたは F A X で回収
当日調査	S Q S で作成した調査用紙により実施 事業実施直後に直接回収
事後調査	S Q S で作成した調査用紙により実施 切手貼付済の返信用封筒による郵送で回収

事業評価の方法

手順 4

(事例) 復興支援セミナー「宮古地区放課後子ども総合プラン研修会」

(7) 次の質問項目ごとに、A～Dのうち、該当するものをぬりつぶしてください。

		A:よく理解できた	B:多少理解できた	C:あまり理解できなかった	D:まったく理解できなかった
1	【質問項目①】【講義・演習】を通して学童期の子どもたちに紹介できる「遊び」を、あなたはどの程度理解できましたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	【質問項目②】【講義・演習】を通して子どもたちを遊ばせる上で気をつけるポイントについて、あなたはどの程度理解できましたか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(5) 講義・演習の評価として、A～Dのうち、該当するあなたの評価をぬりつぶしてください。

		あなたの評価			
		A:有意義	B:どちらかといえば有意義	C:あまり有意義でない	D:有意義でない
1	【講義・演習】「からだを使って楽しく遊ぼう」	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

事業評価の方法

手順 4

(事例) 復興支援セミナー「宮古地区放課後子ども総合プラン研修会」

○事前アンケートの記入のお願い

次の質問項目ごとに、A～Dのうち該当するものを選び事前アンケート欄にご記入下さい。
(A:よく知っている B:多少知っている C:あまり知らない D:まったく知らない)

【質問項目①】学童期の子どもたちに紹介できる「遊び」を、あなたはどの程度知っていますか。

【質問項目②】子どもたちを遊ばせる上で気をつけなければならないポイントについて、あなたはどの程度知っていますか。

事前アンケート	
①	②
A	B

事業評価の方法

手順 4

(事例) 復興支援セミナー「宮古地区放課後子ども総合プラン研修会」

(4) あなたはこの研修会で学んだ「鬼ごっこ」をやってみる機会がありましたか。

- 何度もあった 1～2度あった
 機会は無かったが、これからやってみたい 機会が無かったし、今後もしないと思う

(3) 次の質問項目ごとに、A～Dのうち該当するものをぬりつぶしてください。

		質問に対する回答			
		A:よく知っている	B:多少知っている	C:あまり知らない	D:まったく知らない
1	学童期の子どもたちに紹介できる「遊び」をあなたはどの程度知っていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	子供たちを遊ばせる上で気をつけなければならないポイントについて、あなたはどの程度知っていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

事業評価の方法

手順4

【有効回答について】

当日調査	回答に欠損や不備がなく、すべての回答が得られたもの
事前・事後調査	事前と事後のどちらも回答に欠損や不備がなく、すべての回答が得られたもの

【集計方法】

当日・事後調査	SQSを使用
事前調査	エクセルを使用

28



事業評価の結果

30

事業評価の方法

手順5

結果の分析方法

事前・当日・事後調査の回答が自動で得点化されるSQSの機能を活用し、クロス集計による分析

SQSについて、詳しくは別添資料をご参照ください

- ・「事業目的の達成度」と「参加者の満足度」の関係
- ・「事業内容の活用度」と「事後の実態」の関係
- ・「事前の実態」と「事後の実態」の変容

29

事業評価の結果

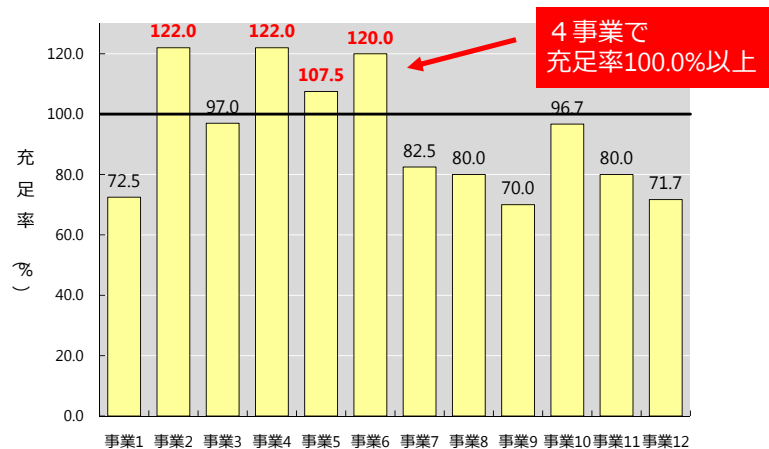
ここで取り上げる12事業

	事業名
事業1	学校支援地域コーディネーター等研修会
事業2	学校と地域の協働のための研修会
事業3	放課後子ども総合プラン指導者合同研修会①
事業4	放課後子ども総合プラン指導者合同研修会②
事業5	子育て支援スキルアップ研修会〔中部〕
事業6	子育て支援スキルアップ研修会〔沿南〕
事業7	子育て支援スキルアップ研修会〔宮古〕
事業8	子育て支援スキルアップ研修会〔盛岡〕
事業9	復興支援セミナー〔宮古〕
事業10	復興支援セミナー〔県北①〕
事業11	復興支援セミナー〔県北②〕
事業12	読書ボランティア研修会〔沿岸南部会場〕

31

事業評価の結果

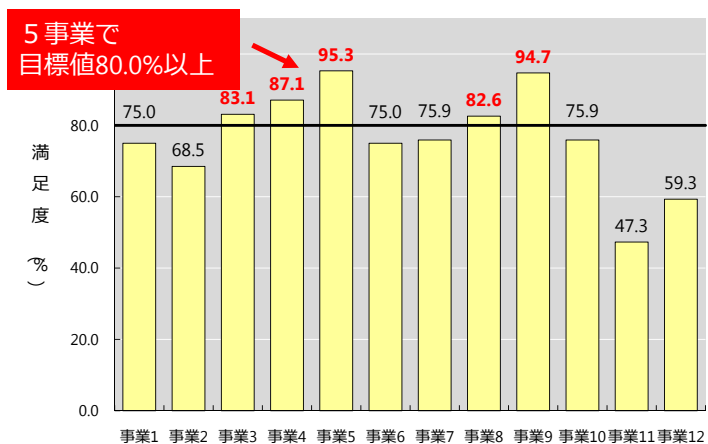
評価指標 i 「事業の参加者数」では、
12事業のうち4事業が目標値を上回っている



32

事業評価の結果

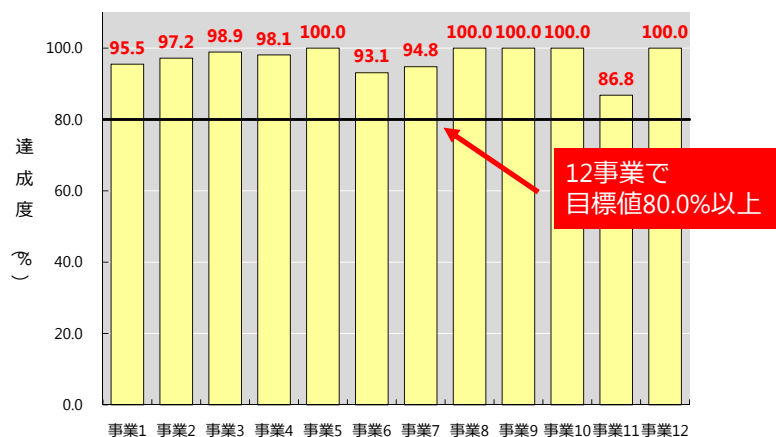
評価指標 iii 「参加者の満足度」では、
12事業のうち5事業が目標値を上回っている



34

事業評価の結果

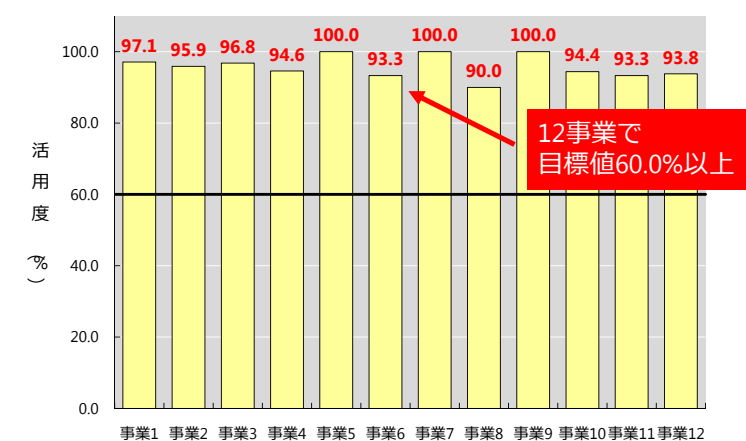
評価指標 ii 「事業目的の達成度」では、
すべての事業が目標値を上回っている



33

事業評価の結果

評価指標 iv 「事業内容の活用度」では、
すべての事業が目標値を上回っている



35

事業評価の結果

評価指標 v 「参加者の変容」では、
12事業のうち8事業がプラスとなっている

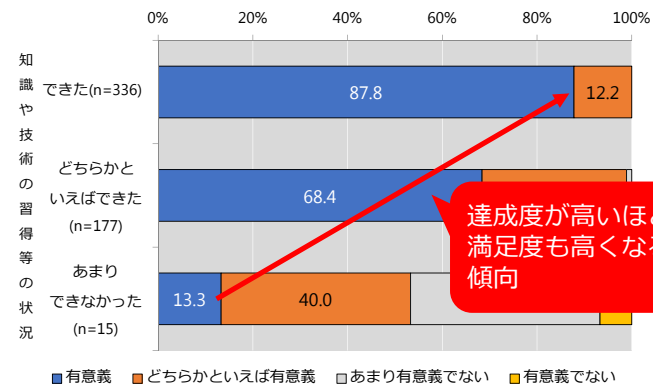
	参加者の変容 (ポイント)			平均値
	質問項目①	質問項目②	質問項目③	
事業1	23.6	-17.7	29.4	11.8
事業2	22.5	8.1	22.4	17.7
事業3	0.0	-12.7	-	-6.4
事業4	0.0	-10.8	-	-5.4
事業5	50.0	-	-	50.0
事業6	33.3	46.7	-	40.0
事業7	20.0	26.6	-	23.3
事業8	-10.0	-	-	-10.0
事業9	40.0	20.0	-	30.0
事業10	11.1	27.8	-	19.5
事業11	20.0	-20.0	-	0.0
事業12	0.0	3.1	-	1.6

8事業で
プラスの変容

36

結果の分析・考察

知識や技術の習得等が「できた」参加者ほど、
事業全体の評価を「有意義」とする傾向がある



達成度が高いほど、
満足度も高くなる
傾向

38

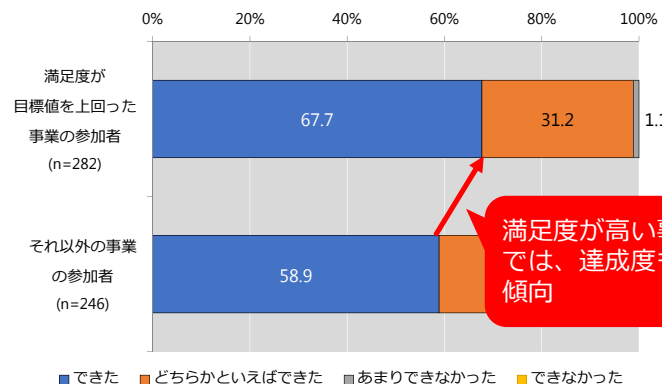
結果の分析・考察



37

結果の分析・考察

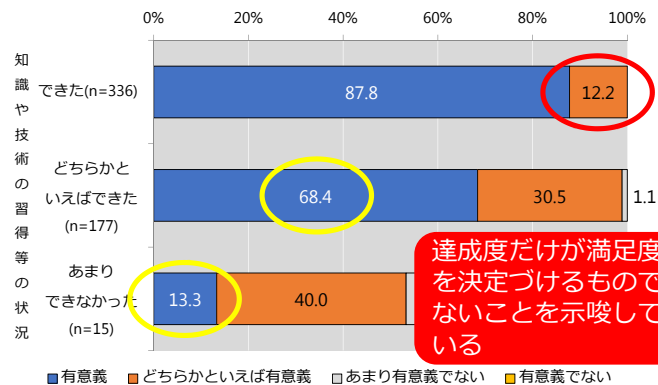
満足度が目標値80.0%以上の事業では、
知識や技術の習得等が「できた」参加者の割合が高い



満足度が高い事業
では、達成度も高い
傾向

39

結果の分析・考察

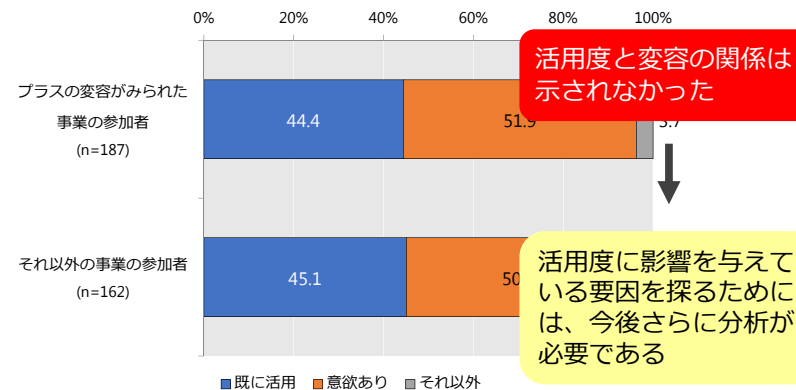


達成度だけが満足度を決定づけるものではないことを示唆している

満足度には達成度との関係性は認められるが、そのほかの要因も考慮し事業を企画・運営することが必要

結果の分析・考察

プラスの変容がみられた事業とそうでない事業で、事業後の活用状況に差はみられない

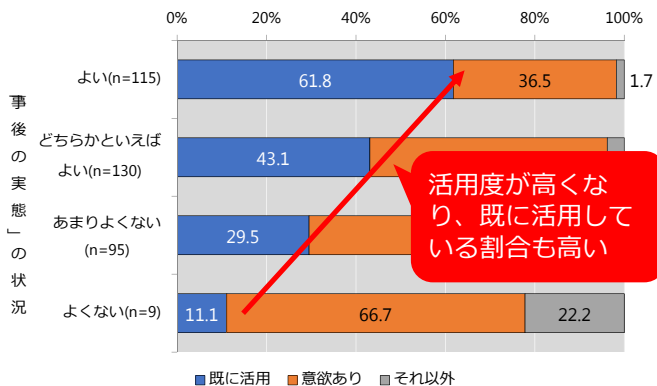


活用度と変容の関係は示されなかった

活用度に影響を与えている要因を探るためには、今後さらに分析が必要である

結果の分析・考察

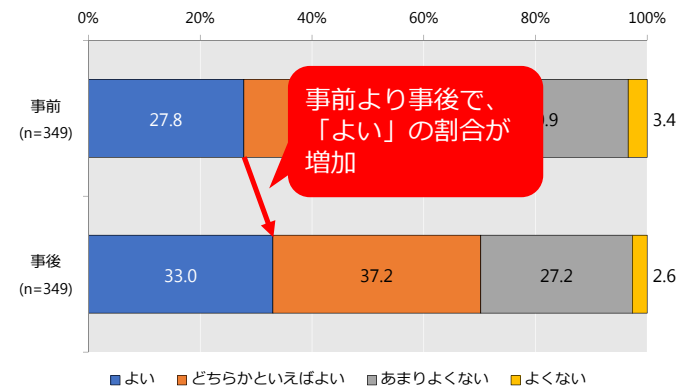
事後の時点で知識があるなど状況がよい参加者ほど、活用度が高い傾向がある



活用度が高くなり、既に活用している割合も高い

結果の分析・考察

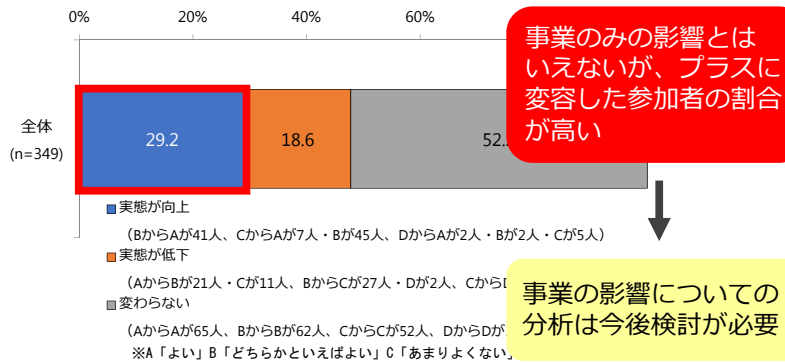
事前と事後における知識等の状況を比較すると、事業後で「よい」の割合が増加



事前より事後で、「よい」の割合が増加

結果の分析・考察

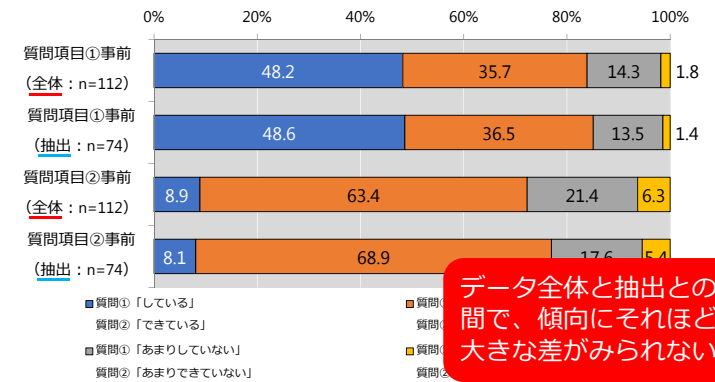
事業前後で比較した参加者自身の変容では、「向上」の割合が「低下」より高くなっている



44

結果の分析・考察

(参考) 「第2回放課後子ども総合プラン指導者合同研修会」

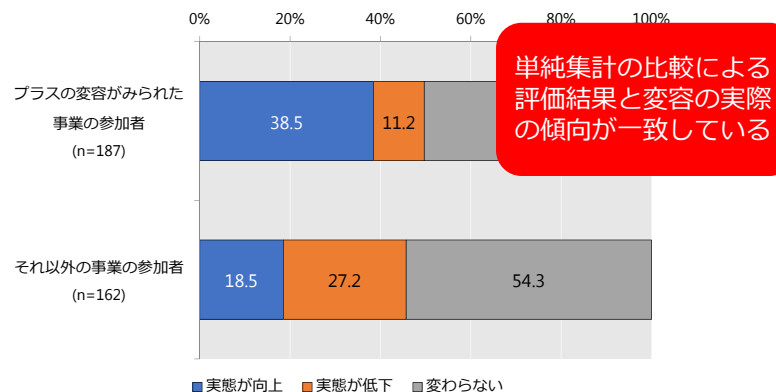


参加者の変容について同様の調査を実施する場合、データ全体の比較で傾向を捉えることは可能と考える

46

結果の分析・考察

プラスの変容がみられた事業では、知識等があるなど状況が向上した参加者の割合が高い



45



事業評価の方法に関する考察 – 成果と課題 –

47

事業評価の方法に関する考察 – 成果と課題 –

「効果的な事業評価の方策」について

- ・ 事業当日及びその前後の3時点において調査を実施した
- ・ 事業の参加者数、参加者の満足度に加え、事業目的の達成度、事業内容の活用度、参加者の変容についての事業評価を行った
- ・ 調査の結果は数値によって示した

48

事業評価の方法に関する考察 – 成果と課題 –

「効率的な事業評価の方策」について

- ・ 調査する項目数を3項目程度に絞り、負担を軽減した
- ・ SQSの活用により、事業評価の効率化を図った
- ・ 共通した評価指標や目標値を設定することで、調査に汎用性をもたせ、事業毎の評価にかかる負担を軽減した

50

事業評価の方法に関する考察 – 成果と課題 –

「効果的な事業評価の方策」について【今年度の成果】

- ① 当日調査において、参加者の知識や技術の習得状況等を把握したことにより、事業目的の達成度を評価することができた
- ② 事前調査において、参加者の知識等の実態を把握した
- ③ 事後調査で、参加者の活用状況を把握し、事業内容の活用度を評価することができた
- ④ 事前・事後調査の結果を比較することにより、参加者の変容が把握できた
- ⑤ 調査の回答を数値化することで、事前事後等の比較ができた

49

事業評価の方法に関する考察 – 成果と課題 –

「効率的な事業評価の方策」について【今年度の成果】

- ① アンケート調査の項目数を絞ることによって、事業担当者と調査対象者の負担を軽減できた
- ② SQSの活用により、アンケート調査用紙の作成や調査結果の集計など、事業評価に必要な作業にかかる時間や労力等を軽減することができた
- ③ SQSの集計によって数値化されたデータで、分析が容易にできた
- ④ 調査に汎用性をもたせ、質問項目の流用を可能とすることで、各事業担当者の事業評価にかかる負担を軽減できた

51

事業評価の方法に関する考察 – 成果と課題 –

次年度に検討すべき点

- ① 質問項目の内容や項目数等を検討する
- ② データの信頼性を高め、その分析方法を検討する
- ③ 経費の確保とさらに負担の少ない方法の検討
- ④ 事業評価の結果を次の事業計画に活かしていく

52

研究のまとめ

今年度の研究のまとめ

- ・ 評価にかかる負担を軽減しながらも、事業の結果（アウトプット）と成果や効果（アウトカム）を、できる限りの確に把握し、客観的な数値で示す方策を示すことができた
- ・ 今回の評価に関する実践の中から、「3時点で評価する」「調査する項目数を絞る」「アンケートに汎用性をもたせる」等の点を、市町村等での事業評価にも、活用できる部分があるのではないかと考える
- ・ 前出した【次年度に検討すべき点】を中心として、さらに効率的・効果的な事業評価のあり方について、研究を進めていきたい

54



研究のまとめ

53